



2018（平成30）年度施政方針

ひとつながりまち



那覇市



< 目 次 >

1 市政運営の基本姿勢

- (1) はじめに
- (2) 未来を拓く第5次那覇市総合計画
- (3) 平和で活気溢れる風景を求めて
- (4) 未来を生きるこども達のために
- (5) 稼ぐ力を高める
- (6) 健康、差し迫った危機を乗り越えるために
- (7) 文化芸術、伝統芸能の継承と発信
- (8) 協働のさらなる高みを目指して
- (9) 交通問題への挑戦

2 予算編成と主要事業の説明

- (1) 予算編成の説明
- (2) 主要事業の説明

3 結びに

あじまあの創出

はじめに

はいたい　ぐすーよー　ちゅーうがなびら。

私が「平和・こども・未来一ひと　つなぐ　まちー」を高く掲げ、那覇市長に就任してから、はや 3 年の歳月が流れました。この間、政策の一丁目 1 番地とした、待機児童の解消をはじめとするこども政策や新たに二丁目 1 番地に位置づけた、経済振興政策を中心に幅広い施策を積極的に進めてまいりました。

また、皆様との約束である公約についても、多くは順調に推移し、概ね達成しつつあると自負しています。

これまで、ご理解とご協力をいただいた市民の皆様、厳しくも愛情のある叱咤激励をいただいた本市議会の皆様に改めて心より感謝を申し上げます。

私に与えられた任期も残すところ 9 ヶ月となりました。「人がまちを創り、社会を創り、世界を創る」。この言葉に託した初心を忘れず、今日までの歩みを謙虚に振り返りながら、引き続き、情熱と覚悟を持って、全力を傾けていく所存であります。

ゆたさるぐとう　うにげーさびら。

それでは、平成 30 年度の施政方針と予算案、主要事業をあわせてご説明申し上げます。

（未来を拓く第 5 次那覇市総合計画）

未来への夢が広がる第 5 次那覇市総合計画がいよいよ動き出します。なは市民協働大学院での熱心な議論を基に、次代を担う中高生や経済を支える事業者などの幅広い声を紡ぎながら、有識者の専門的な意見を重ねてきました。また、本市議会も、議会基本条例のもと、精力的にご参画いただき、互いに多角的で真摯な議論を交わしてきました。

それぞれの熱き思いが託された新たな総合計画は、協働を深化させるとともに、まちづくりの羅針盤として、今、私達の間で確実に共有されたと考えています。

総合計画では、まちづくりの基本的な姿勢として、「協働・平和・共生・活力・共鳴」の 5 つの「絆」を築くことを掲げました。これらの「絆」が、私達を結びつけ、やがて面として、市全体に広がりゆくことは、私の目指す「ひと つなぐ まち」そのものとも言えます。これからも、まちづくりの担い手一人ひとりの結びつきを強く意識していきます。

さて、本市は、この計画期間中に、市制施行 100 周年の大きな節目を迎えます。目先の 10 年にとどまることなく、次の 100 年にも想いを馳せなければなりません。先人が築いてきた伝統に、新たな発想と視点を重ね、本市に、さらなる輝きと揺るぎなき風格を生み出し、次世代の笑顔が未来に広がるよう、新しい総合計画とともに、確実な一步を踏み出してまいります。

（平和で活気溢れる風景を求めて）

「またか」と、ため息がでるほど、米軍関係の事件事故が後を絶ちません。無謀な飲酒運転により尊い命が奪われ、こども達が安全な日常を過ごすべき場所に空から部品が落下し、ヘリ不時着が相次いだことに言葉を失いました。命が脅かされる日常に強い憤りを禁じえません。

これらの事件事故は、米軍専用施設が集中する過重負担と米軍に認められる特権的な地位の不条理を、より一層あらわにし、平穏な生活を願う私達を苦しめています。

日米安全保障条約と日米地位協定。今、真正面から向き合わなければならない大きな問題です。安全保障を米国に委ねる我が国において、日米安全保障体制の維持に伴う負担は、国民すべてが等しく負わなければなりません。また、不平等な内容であり、理不尽さが際立つ地位協定は、日本国内のどこであれ、国民の生命財産、尊厳を守るために、直ちに改定されなければなりません。

県民の大多数が戦後生まれとなり、米軍基地に翻弄される沖縄の現実は今として、さも当たり前風景であるかのような錯覚に陥ることがあります。しかし、これだけは絶対に当たり前の風景にしてはなりません。平和で活気に溢れ、人々の明るい声がこだまする、この地にあるべき本来の風景を取り戻さなければなりません。

米軍基地の整理縮小、日米地位協定の抜本的改定を強く求め、これからも市民の皆様、本市議会の皆様と心をひとつに、しっかりと声を上げてまいります。

（未来を生きるこども達のために）

私の市長就任後、待機児童は解消に向け、大きく前進しました。市民の皆様、何より多くの保護者の皆様から直接、たくさんの喜びの声をいただきました。市政を預かる者として、大きな励みになるものです。

しかしながら、待機児童問題の解消は、こども政策、子育て支援の一部、ほんの入り口の問題に過ぎません。

保育の受け皿拡大と同様、就学後の受け皿づくり、こども達の放課後の居場所づくりについても、あるべき姿を考え、追いつけていかなければなりません。

さらには、子どもの貧困対策、妊娠期から始まる子育て世代への支援、児童虐待予防、ひいては学力向上と、様々な場面で量や質の向上が求められています。

近年、喜ばしいことに、子どもの貧困対策をその大きな契機として、地域やNPO等の各種団体、そして企業へ、こども政策、子育て支援に対する理解が深まるとともに、支援の輪が広がりを見せ、活発化しています。

こども政策、子育て支援は、行政だけで成し得るものではありません。何より子育てに関わることは、私達大人を人間として成長させてくれます。家庭、地域、企業、そして、社会全体がこども達を見守り、一緒に育て、こどもと大人が共に成長していく。それがこのまち全体に浸透し、共有されていくことを私は望んでいます。

未来を生きるこども達のため、共に取り組んでまいりましょう。

（稼ぐ力を高める）

県経済は堅調な観光業が牽引し拡大を続けています。入域観光客数 1 千万人時代もすぐそこまで迫りました。加えて、本市は民間会社のランキングにおいて、そのポテンシャルの高さが評価され、成長可能性の高い都市としてトップテン入りを果たしています。本市の持つ成長可能性を着実な経済成長につなげるべく、経済振興政策を展開し、本市の「稼ぐ力」を高めていきます。

復帰以降、本県のインフラ整備は急速に進展しました。しかし、県民所得は依然、全国最下位であり、本土との経済格差が大きな問題として残っています。

経営思想家、ピーター・ドラッカーは、あらゆる組織は自己中心的に振る舞うが、能力を損なわない限度において社会的責任を負い、社会全体の問題は組織のリーダー達の共同責任であるとししました。そして、戦後間もない日本の大企業の経営者が「日本のため、日本の社会のため、ひいては日本経済にとって最善とは何か」という問い掛けから事業を考えたことが戦後の復興、経済的な発展につながったと紹介しています。

私は、組織のリーダーのひとりとして、沖縄社会が抱える本土との経済格差という問題に向き合い、その縮小を目指します。「沖縄のため、沖縄の社会のため、ひいては沖縄経済にとって最善とは何か」。この思いを共有する、志高き企業や起業家等との連携、あるいは支援を通して、本市は次なるステージへの飛躍を目指してまいります。

（健康、差し迫った危機を乗り越えるために）

昨年 12 月に、厚生労働省がまとめた「2015 年都道府県別生命表」が発表されました。

本県の平均寿命順位は、男性が 36 位、女性は 7 位と前回調査よりも後退しました。しかし、何より残念であることは、65 歳未満の働き盛り世代の死亡割合が、男女共に全国ワーストであり続けているという事実です。

報道に併せた特集記事を読み、私は胸を引き裂かれる思いがしました。「家族に迷惑をかけているという罪悪感にたびたび襲われる。病気になったらその時はその時と言っていた過去の自分に、今の生活を見せたい」。この偽りの無い男性の言葉は、長寿県の復活といったこと以前の差し迫った危機を伝えるものであり、働き盛りの市民の皆様、特に、これまでご自身の健康にあまり関心を寄せてこなかった市民の皆様へ改めて伝えたい、伝えなければならない、そう、私は痛感いたしました。

病気になることを自ら望む人はいません。それでも、喫煙や多量飲酒、栄養の偏った食事や運動不足等の生活習慣の乱れは、体を徐々に蝕んでいきます。差し迫った危機を乗り越えるためにも、まずは、健康状態を知ること、健康診断を受けることから始めてください。そして、生活習慣を見直し、健康づくりに取り組みましょう。

本市は、高齢者からこどもまで、市民全世代の健康づくりを引き続き支援するとともに、生活習慣病の重症化予防に向けた取組みをより一層、強化してまいります。

（文化芸術、伝統芸能の継承と発信）

道ジュネーの響きに家から駆け出した幼き日々。夕暮れ時、家路を急ぐ私の歩みを止まらせた、どこからともなく聴こえた優しい三線の音色。

この地の気候風土、異文化との交流の中、先人達が花開かせ、独自に発展させてきた文化芸術、伝統芸能の数々に、私達のアイデンティティは育まれてきました。これらの誇り高き伝統を継承、発展させ、確実に次世代へつないでいかなければなりません。

一方、残念なことです。一昨年、耐震性等の課題から、長年、文化の殿堂として親しまれてきた那覇市民会館を休館せざるを得なくなりました。安全確保のためとは言え、こども達を始めとする市民の皆様の大切な機会を閉ざしたことに、私も大変、心苦しく思っています。

現在、久茂地小学校跡地に建設を進めている新文化芸術発信拠点施設は、これまで市民会館が果たしてきた機能や役割を引き継ぐとともに、新たな文化を創造し、未来へ発信する施設となります。そこから生まれる豊かな文化は、ソフトパワーとして、本市のまちづくりに大きな力を与えてくれるものと確信しています。

市民が優れた舞台に接する機会をつくるとともに、新たな担い手の育成・交流を促進し、地域文化をさらに発展させるため、3年後の市制施行 100 周年という、節目の年の開館を目指し、関係者が待望する新文化芸術発信拠点施設の整備に全力で取り組んでまいります。

（協働のさらなる高みを目指して）

新しい総合計画には、身近で助け合う「近助」というキーワードが盛り込まれています。自助、共助、公助と連なる枠組みのなかで、「近助」は、思いやりや譲り合いの心を基本に自然に出てくる助け合いを指しています。

私達の日常の営みは、社会が多様化し、複雑化する中で、様々な考え方や価値観が対立し、意見がまとまらないこともあります。しかし、「人間は社会的動物である」と言われるように、他者との関わりなしには生きていきません。だからこそ、沖縄の黄金言葉の「ちゅい 助き 助き」「ちゅい たれー だれー」にも通じる、「近助」という言葉に、改めて大きな意義を感じています。

さて、本市では、小学校区単位での新たなコミュニティをつくる、校区まちづくり協議会の設立を推進し、設立に向けた支援を行っています。今後は、校区まちづくり協議会をより発展させるべく、人材データベースとの連携を始め、医療、介護、保健、福祉、さらには企業といった、様々な地域資源が地域住民と結びつく、新しい地域社会の創造に向けた仕組みづくりに取り組みたいと考えています。

「公助」としての責任を果たしつつ、市民の皆様「近助」を身近に感じていただき、自助、近助、共助、そして、公助が連動する新しい仕組みを創りあげ、人と人、人と地域が支え合う社会を築き、私達が追い求めてきた協働を、さらなる高みへと昇華させてまいります。

（交通問題への挑戦）

ゆいレールが街中を走り出し、まもなく 15 年を迎えます。多くの市民県民、観光客に親しまれている一方で、沖縄は変わらず車社会であり続けています。市内の至る所で渋滞が発生し、本市の交通渋滞は全国一ひどい状態だと言われています。渋滞は、市民生活の負担となり、貴重な時間と労働力を奪い、経済的損失を多大なものとしています。また、今後の沖縄観光に対する悪影響も懸念されています。今こそ、自動車主体の社会から公共交通機関を主体とする社会へ転換を図る必要があります。

ゆいレールの浦添延伸、沖縄自動車道との接続によりパーク＆ライドが実現することで公共交通機関利用の促進が期待されています。また、バス利用を促す取組みとして、関係機関による基幹バス導入を中心とした、路線網の再編、高校生を対象とした社会実験等、様々な取組みが実施、検討されています。しかし、これらの取り組みを成功させ、確かなものとするためには、市民自身がこの問題の当事者であり、自分事であるという意識を強く持ち、行動を変えていくことが何より重要となります。

私は、本市のまちづくりについても、自動車に頼り過ぎず、高齢者などの交通弱者や環境にも優しく、また、市民の健康づくりにも貢献することを意識していきます。そして、本市を取り巻く交通問題に対する市民の意識を変え、行動を変える仕組みを作ることを目指し、国や県と連携しながら、力強く取り組んでまいります。

予算編成と主要事業の説明

（予算編成の説明）

それでは、平成 30 年度予算案の概要を申し上げます。

一般会計予算は、1,475 億 7 千百万円で、対前年度比 43 億 1 千 1 百万円、3%の増となっております。

歳入予算では、景気上昇や収納努力による市税の着実な増を見込む一方、財政力の向上に伴う地方交付税の減額を見込んでおります。

歳出予算では、待機児童解消や子どもの貧困対策、子育て世代包括支援センター等の子ども分野、学校施設や市営住宅の建替え事業等のほか、「稼ぐ力」を実践する観光や産業などの経済分野へも予算を計上してまいります。

結果として、約 23 億 5 千万円の収支不足が生じますが、財政調整基金から前年と同規模となる、同額を取り崩して対応しております。

企業会計を除く特別会計予算は、総額 699 億 3 千 147 万円で、対前年度比約 113 億円、13.9%の減となっております。特別会計予算の減額は、国民健康保険事業特別会計、市街地再開発事業特別会計などの減によるものとなっております。

国民健康保険事業につきましては、全庁を挙げた徹底した財源捻出により、前期高齢者財政調整制度に起因する累積赤字については、完全に解消いたしました。

厳しい財政状況のおり、多様化する市民ニーズに引き続き適切に対応してまいりますので、市民の皆様のご理

解とご協力をお願いします。

（主要事業の説明）

次に平成 30 年度の主な事業を、第 5 次那覇市総合計画で掲げた 5 つのめざすまちの姿に沿ってご説明します。

まず、「多様なつながりで共に助け合い、認め合う安全安心に暮らせるまち NAHA」について、ご説明します。

（小さな「わ」が大きな「Wa」に広がる協働によるまちづくり）

校区まちづくり協議会支援事業では、「小学校区コミュニティ推進基本方針」に基づき、新たに 3 校区程度の協議会に対する設立支援を行い、また、地域の情報を集約した「校区まちづくり協議会カルテ」を作成します。

「なは市民活動支援センター」の利活用を充実させ、協働大使や自治会等の利用団体と市民の皆様が連携する自主的な取り組みを促し、地域の活性化につなげていきます。また、地域の人材情報を集約し、地域のニーズとマッチングさせる「那覇市人材データベースモデル事業」を実施します。

自治会長連合会など地域の拠点となる、小禄支所の建替えに向け基本設計を進め、真和志支所については、中央図書館や中央公民館等との複合化を視野に、建替えに向け、具体的に進めていきます。

（地域の力が重なる安全安心のまちづくり）

市民の安全安心の確保のため、アナログ防災行政無線のデジタル化を推進し、災害情報等を迅速に伝達する体制を強化します。

消防力強化のため、小祿支所建替えに合わせ、新たに「小祿南出張所（仮称）」を設置します。さらに、神原出張所の救急隊を1隊増やすとともに、同出張所を中央消防署の分署として格上げし、消防体制を整備します。

また、消費者被害の未然・拡大防止に向けて、地域や学校への出前講座等、啓発活動及び消費者教育の推進に取り組むほか、相談体制の充実・強化を図っていきます。

（交流の輪を広げ平和を希求するまちづくり）

ハワイの沖縄プラザ建設への支援を行い、サンビセンテ市へは、姉妹都市提携 40 周年という節目の年を迎えるにあたり、友好な親善交流に向けて取り組みます。

高齢化する遺族に寄添い、引き続き「戦没者追悼式 なぐやけの碑慰霊祭」を本市主催で実施いたします。

旧軍飛行場用地問題の解決に向けて、旧地主の慰藉につながる施設の早期建設に取り組みます。

（人権が尊重され、誰もが心豊かに安心して暮らせるまちづくり）

いじめやデート DV 防止、将来の DV 防止につなげるため、中学 1 年生を対象に、人権に関する意識啓発事業

を実施します。こどもや高齢者、障がいのある方に対する虐待への対応、ハンセン病療養者に対する支援などについても、人権問題として、継続して取り組みます。

また、トップランナーとしての誇りを持ち、一人ひとりの個性やLGBTを含む性の多様性を尊重する取り組みを引き続き行っていきます。

男女共同参画分野の人材育成に資する、国内外研修の参加費の助成を行います。

次に、「互いの幸せを地域と福祉で支え合い誰もが輝くまち NAHA」について、ご説明いたします。

（地域で暮らし地域で支えるまちづくり）

自治会等による訪問活動を行う地域見守り隊の結成拡充により、地域で悩みを抱える方が孤立しないような地域作りを目指します。

高齢者が、より身近な地域で医療及び介護などのサービスを受けられる「地域包括ケアシステム」を推進するため、地域包括支援センターを 12 か所から 18 か所に増設するとともに、介護予防に向けた認知症予防教室や、地域リハビリ教室などの総合事業を継続していきます。また、地域に密着した特別養護老人ホームやグループホームの整備をさらに進めてまいります。

障がいのある方が安心して暮らし、働けるよう、就労支援や身体的な介護、生活訓練等の障がい福祉サービスを引き続き提供します。

こどもの貧困問題に対処する自立支援員を配置し、子ども食堂等の居場所づくりを継続して進め、さらに学校や地域、企業などと連携して、社会全体にこども達への支援の輪が広がるよう、取り組んでまいります。

（すべての人が健康で生き生きと暮らせるまちづくり）

妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援を行う子育て世代包括支援センターを設置します。

本市の健康課題である、肥満、多量飲酒と飲酒の習慣化、喫煙、生活習慣病の重症化の予防等に取り組み、平均寿命や健康寿命の延伸に努めてまいります。特に、働き盛り世代が職場や地域で自主的に健康づくりを行い、特定健診を受診して、生活習慣病や早世の予防につながるよう支援を行います。

また、健康づくりの一環として、「ひやみかちなはウォーク」を引き続き開催していきます。

（身近な地域で良質かつ適切な医療が受けられるまちづくり）

休業補償のない骨髄提供者の入院等に対し、助成を行う「骨髄移植ドナー支援事業」を新たに開始します。

糖尿病等の重症化予防の取り組みに向け、CKD登録医をはじめとするかかりつけ医等と連携を図り、人工透析への移行を防止する取り組みを強化します。

また、小児医療や救急医療等、地域の中核病院である

那覇市立病院の現在地での建て替えに着手します。

（衛生的で快適に暮らし、健康危機にも強いまちづくり）

食品、生活及び保健衛生の監視指導を行い、衛生管理の向上に努めていきます。

感染症等、市民の生命・健康を脅かす事態に対して、拡大防止、治療等に関する業務を円滑に行っていきます。また、平常時から、健康危機管理対策の連絡会議等を開催し、関係団体と連携を図ってまいります。

次に、「次世代の未来を拓き、豊かな学びと文化が薫る誇りあるまち NAHA」について、ご説明いたします。
（子育てが楽しくなるまちづくり）

一丁目１番地の政策として掲げた、待機児童対策では、保育所の創設等による保育定数の拡大を図った結果、待機児童は大幅に解消されてきております。

新たに、潜在保育士の認可保育園等への就職を促すため、就職応援祝い金を支給するほか、正規雇用化の促進や賃金等の処遇改善を通して、保育士確保を図り、待機児童解消につなげていきます。

地域のコミュニティと児童の健全育成を支援する公園施設として「緑ヶ丘公園集会所（仮称）」を設置します。

また、放課後児童クラブについても施設の拡大を図るとともに、クラブへの補助を通して、児童支援員の賃金等の処遇改善を図ります。

子育て世帯の支援として、こども医療費助成事業では、病院の窓口で現金を支払う必要がない現物給付方式の 10 月導入を目指して準備を進めます。

小学校新入学児童のいる、生活に困窮する世帯に対し、ランドセル等の学用品を購入するための準備金を、入学前に援助します。

成績優秀で意欲があるにも関わらず、経済的な理由で県内大学等への進学が困難な学生に対し、進学及び修学を支援するため、入学支度金及び授業料を全額給付する、本市独自の給付型奨学金を創設いたします。

こどもの貧困対策に活用する「こどものみらい応援プロジェクト推進基金」に、市民への幅広い協力を呼びかけるとともに、本市としても 1 億円を積み立てます。

（自らの力で未来を拓く子ども達を応援するまちづくり）

本市の児童生徒の学力は、小中一貫教育を柱とした授業改善等の取り組みにより向上が図られています。今後は、地域等との連携をさらに進め、人間性豊かな人材育成を目指します。

全中学校区に子ども寄添支援員を派遣し、貧困家庭の児童生徒への細やかな支援を行います。また、不登校の児童生徒には、学校や家庭と連携し、アウトリーチを行うなど、こども達の状況に応じた支援に取り組みます。

学校施設については、要望が大きいトイレの洋式化や遊具の改修を着実に進めるとともに、引き続き校舎の耐

震化や改築事業を行います。

（生涯学習を推進し、地域の教育力を向上させるまちづくり）

真和志南地区に、人材の育成と地域コミュニティの拠点施設として、「活き活き人材育成支援施設（仮称）」の整備を継続して行います。

小学校等が、地域の人々や団体等をつなぐ場、子育て・健康・福祉サービスを行う等のコミュニティの拠点の場となるよう、学校のオープン化を進めます。

（郷土の歴史、伝統文化・芸能にふれあい、新たな文化を創造するまちづくり）

伝統文化を継承し、市民の芸術活動の拠点となる新文化芸術発信拠点施設の建設工事に着手し、3年後の開館に向け事業を着実に推進していきます。

伝統文化の保存・継承・発展と、市民の文化芸術・芸能活動の支援にあたり指針となる、文化振興基本計画の策定に向けた基礎調査を行います。

重要な伝統文化の礎である「しまくとうば」の保存・継承・発展を図るため、「うちなーぐち講座・成果公演」を実施します。

次に、「ヒト・モノ・コトが集い、育ち、ひろがる万国津梁のまち NAHA」について、ご説明いたします。

（ビジネス・リゾートと歴史・文化が融合する観光まちづくり）

那覇港へのクルーズ船寄港回数の増加や新規航空路線の就航に伴い、今後も外国人観光客の増加が見込まれることから、その体制整備を目指します。

空港や港などがある本市独自の特性に則した実態調査を行い、災害時の観光客への対応から、災害後の観光産業の回復までの観光危機管理計画（仮）を策定します。

（様々な産業が集い・育ち・ひろがるまちづくり）

独自の目線・切り口で市内経済産業の振興をアピールすることに特化した「なはけいざいMAGAZINE」の発刊を継続します。

中小企業実態調査の結果を踏まえ、本市の「課題」と「効果的な施策」の分析を行い、支援施策を検討します。

企業へ投資が促進されるよう、投資家と企業のマッチング環境整備を行います。また、新商品や新サービス開発を支援し、さらなる経済発展及び雇用創出を図ります。

情報通信関連産業と他産業の融合による高度化を積極的に推進する「沖縄ＩＴイノベーション戦略センター」の設立に参画します。

『魅力的な「うみ業」のまち』の実現に向けた水産業振興発展のため、泊を拠点とする漁業関係団体等が行う冷凍冷蔵施設の建設や、漁業関連施設の機能強化を積極的に支援します。

（産業を支える市民とその労働環境を整えるまちづくり）

「なはしスタートアップサロン（仮称）」を活用し、市民の創業や就業に関する相談、セミナー開催やビジネスマッチング等の支援を行ってまいります。

「働き方改革」を踏まえて、ワークライフバランスの推進や職場環境改善策について、広く周知していきます。

（中心市街地を活かしたまちづくり）

第一牧志公設市場の賑わいを継続していくため、にぎわい広場に仮設市場を建設するとともに、現在地での新たな市場建設に向けた実施設計を行います。

また、商業の活性化を図るため、従来の中心市街地のみならず、市域全体の商店街や通り会等についても、創意工夫した積極的な取り組みに対し、頑張るマチグッー等支援基金の活用を通して、支援していきます。

次に、「自然環境と都市機能が調和した住みつづけたいまち NAHA」について、ご説明いたします。

（省エネを実践し、資源が循環するまちづくり）

地球温暖化対策の一環として、住宅用省エネ設備に対する費用の一部助成を継続して実施します。

好調な経済活動に伴い増加している事業系ごみの分別、資源化など適正処理の指導を継続します。また、家庭から出された紙や缶類等の資源化物の持ち去り防止を徹底し、地域等と協働して、拠点回収を進めます。

（自然環境が育まれた那覇らしい亜熱帯庭園都市のまちづくり）

市民に自然環境保全の意識を高めてもらうよう、環境啓発事業を推進していきます。

また、公園遊具の改修を行うとともに、公園ボランティア等、市民の主体的な活動や、民間活力を活かした公園の効果的な整備・再生・活用を進めます。

街路樹の緑化や美化についても、市民や企業ボランティアなどの美化活動との連携を図りながら、観光都市にふさわしい景観づくりに取り組みます。

伝統的な素材である赤瓦屋根や石積みなどの景観をもつ首里地区や壺屋地区において、継続して助成を行い、歴史・文化に彩られた景観づくりを広げていきます。

（暮らして良し歩いて楽しい快適なまちづくり）

のうれんプラザを核とする、農連市場地区の再開発事業について、分譲住宅の整備を促進するとともに、道路や市営住宅、保育所の整備を推進します。

平成 15 年度に事業着手したモノレール旭橋駅周辺地区の再開発事業は、8 月に完成を予定しており、新たなバスターミナルとモノレール駅の交通結節点として、機能強化を図ります。

沖縄都市モノレール延長事業については、次年度の開業を目指し、石嶺駅舎及び周辺の整備に取り組みます。

密集住宅市街地の再生に向けた基礎調査に引き続き取

り組み、中心市街地へのまちなか居住などを推進していきます。

石嶺、宇栄原、大名の各市営住宅の建替工事を継続するとともに、真地市営住宅の建替に向けた基本設計を実施します。

動物愛護管理思想の普及啓発を図り、飼い主のいない猫への不妊去勢手術の実施をとおり、生活環境悪化の低減に努めます。

（災害に強い都市基盤の整備で安全安心のまちづくり）

橋梁やモノレールインフラ等の長寿命化修繕計画に基づき、効率的な予防対策を行います。

交通渋滞の緩和や歩行空間の確保等、安全安心で快適な道路整備を行うために、一銀線を含む都市計画道路7路線の事業を進めていきます。

水道水の安定供給のため、強靱な水道を目指し、水道施設の耐震化を引き続き推進します。

公共下水道の整備による生活環境の改善及び浸水被害の軽減を図るため、汚水未普及地区の解消、首里石嶺町4丁目地区の雨水調整池の整備、下水道ストックマネジメント計画の策定などを進めます。

今後も施設の延命化等を図りながら、災害に強いまちづくりの形成に取り組んでまいります。

（那覇の魅力と特性を活かした土地利用を進めるまち

づくり)

まちづくりの基本的な方針である都市計画マスタープランについては、専門家や市民の意見を取り入れながら、改定作業を進めるとともに、立地適正化計画についても、策定に向け取り組みます。

那覇軍港の跡地利用については、地主会等と連携しながら、跡地利用計画の策定を進めてまいります。

最後に、「市民との信頼を深め、効率的で効果的な行財政運営を行う」について、ご説明いたします。

(市民との信頼を深める職員の育成と組織づくり)

那覇市人材育成基本方針に基づき、知識や技能等の能力開発を図り、社会変化に対応できる職員を育成します。

オンラインで利用できる行政サービスの周知や利用を促進し、新たなサービスの導入検討、拡大を図ります。

庁内組織においては、新たに「都市みらい部」と「まちなみ共創部」を再編設置し、都市機能を適正に誘導し、経済活動を活性化させるなど、より効率的に施策を実施してまいります。

また、防災や国民保護法に定められた危機管理に対応するため、総務部内に「防災危機管理課」を新設します。

(効率的で効果的な行財政運営を行う)

マイナンバーカードで、住民票の写しや税証明書等の交付が、コンビニで取得できるサービスを継続します。

また、組織目標を活用した事業の進捗管理を行いつつ、施設更新時においては、適切な規模の見直しを行うなどファシリティマネジメントの視点を持ち、行財政運営の効率化を図ってまいります。

（結びに）

市政運営にかける私の思いと、平成 30 年度の予算案や主要事業の概要などについて説明いたしました。最後に、もう一言、私の思いを添えたいと思います。

（あじまあの創出）

毎年、多くの市民県民、そして観光客の皆様が那覇大綱挽きに参加されています。舞台となる久茂地交差点で、世代を超え、様々な人々が力の限り大綱を挽き合う光景は、圧巻そのものであり、見る人を魅了してやみません。

さて、交差点は、しまくとうばでは「あじまあ」と言います。そこに引き寄せられるかのように人々が集い、一体となり、大きな力を生み出す様子を見るに付け、私は、「あじまあ」とは、ヒトとヒトが出会い、ヒトとモノが集まり、そして、新しいコトが生みだされる場所ではないかと感じています。実は、その言葉の語源は、綜(あぜ)という、織り機で縦糸を操る道具に由来するそうです。

私はこれまで、まちづくりにおける市民の持つ力を、縦と横の糸に喩えてまいりました。「あじまあ」の語源を知ったとき、人々の織りなす布が次世代の下地を作り、

さらに次世代が布を織る。その積み重なりが、やがてまちの風格、文化や歴史を誇り高く彩っていくという、私が抱いていた想いに連なるものであったと実感しました。

市民の持つ力が布を織りなしていく上で、市政はどのような役割を果たすべきでしょうか。私は、その役割は、市民の持つ力、その可能性に想いを馳せ、まちづくりのプロセスのひとつひとつに「あじまゐ」を創りだし、新しいコトが生み出される準備をしていく、これに尽きるのではないかと思います。

出来上がった「あじまゐ」で市民が出会い、集まり、それぞれの次の未来へ踏み出していく。そのようなイメージを胸に刻み、引き続き、市民の皆様から寄せられる期待に応えるべく、市政運営に臨む決意であります。

市民の皆様、並びに議員各位のご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます、私の施政方針の結びの言葉といたします。

いっぺー にふえーでーびる。

平成 30 年 2 月 13 日

那覇市長 城間 幹子



発行 2018年2月

那覇市企画財務部企画調整課

おおごまだら



りゅうきゅうあわもり

なはは〜り〜

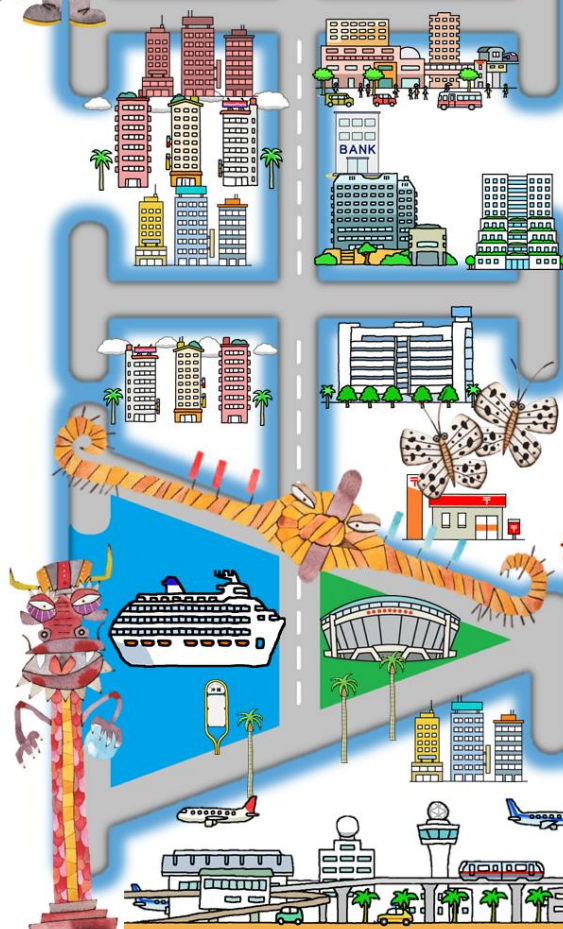


なはのまぐろ



うふし〜さ〜

りゅうちゅう



なはおおつな